

コロナ禍における学生に伝える看護の魅力 ～写真スライドショー 「看護の日・看護週間2021」からの学び～

COMMUNICATING THE CHARM OF NURSING TO STUDENTS UNDER COVID-19 PANDEMIC ～ LEARNING FROM THE PHOTO SLIDE SHOW "NURSING DAY/NURSING WEEK 2021" ～

阿部 春美

ABE Harumi

キーワード：コロナ禍，看護の魅力，学生の学び

Key Words：COVID-19 pandemic, charm of Nursing, student learning

I. はじめに

2020年早春から新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が拡大し、世界的大流行となった。文部科学省は、面接授業が実施できない状況が長期化することを鑑み、自宅における遠隔授業や課題研究などを行うことなど、弾力的な運用も認めた[1]。医療体制の維持及び感染拡大予防の観点から、臨地実習の受け入れ制限を余儀なくされた実習施設があった。一般社団法人日本看護系大学協議会が10月から11月にかけて実施した「2020年度COVID-19に伴う看護学実習への影響調査結果」では、看護系大学の83.4%が実習変更を予定しており、変更予定のある79.8%が臨地実習の日数・時間の短縮を行っていた[2]。A短期大学も2020年5月から遠隔授業が開始され、臨地実習時間の短縮や実習形態の変更を余儀なくされた。

看護基礎教育における臨地実習は、知識・技術

を看護実践の場で適応し、看護の理論と実践を結びつけて理解する能力を養う場である[3]。看護学生にとって初めての看護体験は、専門職になるための目的意識・職業意識を明確にしながら学習意欲を持つ、キャリア形成していくうえで重要な学習活動[4]と言われている。また、先行研究において、看護教育における初期体験実習の意義として、看護職の多様性、看護の基本となるもの、看護職の魅力等を学び[5]、将来目指す看護師像を持ち看護職志向の動機づけとなること[6]、看護職を目指す学生にとっても実習という学習活動は動機づけを高めること[7]が報告されている。「コロナ禍に入学した学生はどのような思いで看護を学んでいるのだろうか」、臨地実習を経験していない学生に看護職の活躍する場面や姿から看護の魅力を伝え、学習の動機づけをしたいと考えた。

今回、教材として『写真スライドショー「看護

の日・看護週間 2021』を視聴した学生の感想・学びの分析により、コロナ禍で看護を学ぶ学生への教育効果と課題を明らかにすることを目的とした。

II. 方法

1. 対象

2021年度A短期大学の成人看護学援助論Iを履修した看護学科2年生86名。

2. 対象者の学修状況

2020年4月全都道府県が緊急事態措置の対象となった時期[8]にA短期大学に入学した学生である。5月中旬より初めての遠隔授業を開始、6月より遠隔授業と並行して演習科目の一部について対面授業を開始し、感染状況により徐々に対面授業の割合が増えた。A短期大学における専門展開科目「基礎看護学」に位置づけられる1年次前期の基礎看護学実習I(7月1週間)、1年次後期の基礎看護学実習II(2月2週間)は、学内実習や遠隔実習に代替えとなり、臨地実習を経験せずに、2年次の授業が開始となった。基礎看護学実習I、基礎看護学実習IIにおいては、実習の目的・目標に沿って模擬患者やシミュレーターを活用した学内実習や映像教材を用いた学習やカンファレンスが実施された。2021年度も感染状況が収束しないため、遠隔授業と対面授業のハイブリット型授業が継続された。2年次前期の2021年8月～9月に3週間の成人看護学実習I(慢性期)が予定されていた。

3. 教材の紹介

公益社団法人宮城県看護協会が近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日に制定した「看護の日」に合わせ作成した『写真スライドショー「看護の日・看護週間 2021』を教材として使用した。この写真スライドショーを収録したDVDは、宮城県看護協会12支部から寄せられた写真を活用し、「看護の仕事は『出産から看取り』まで人生に関わる仕事」

と看護職の活躍する場面をスライドショーで紹介してある。中学校や高等学校、看護師等養成所を中心に県内約740か所に無料配布され、新聞やテレビでも紹介された[9]。上映時間は3分50秒。

4. データ収集方法

2021年5月、研究者が教授する2年次前期履修科目「成人看護学援助論I」の対面授業終了時、教材を紹介し講義室で2回視聴した。1回目は説明を加えず、2回目は、学生が理解しにくい看護場面の対象者や看護活動について研究者が追加説明した。

A短期大学で使用している学習管理システム Learning Management System(以下LMSとする)上で提出された授業後の「学習カード」において、写真スライドショー「看護の日、看護週間 2021」を視聴した感想・学びを提出してもらった。授業後の「学習カード」は、研究者が教授する「成人看護学援助論I」の対面授業時毎回提出してもらっている。感想・学びの字数制限はない。「学習カード」の提出の有無、内容は成績評価の対象としていない。この感想・学びをデータとして使用した。

5. データ分析

写真スライドショー「看護の日、看護週間 2021」視聴した感想・学びの自由記述から類似する内容をまとめ、分類した。

6. 倫理的配慮

写真スライドショー「看護の日、看護週間 2021」を視聴した感想・学びを使用するにあたり、学生に使用目的、個人が特定されないこと、協力は任意であり成績評価など拒否による不利益はないことを口頭で説明した。感想・学びの自由記述から個人が特定される情報を削除し、データ化したうえで使用することを伝え、文書で使用の同意を得た。

Ⅲ. 結果

写真スライドショー「看護の日、看護週間 2021」を視聴した感想・学びの提出があった74名のうち、同意が得られた71名(95.9%)の感想・学びを分析対象とした。

記述内容75データから意味の類似性に沿って、14サブカテゴリー、4カテゴリーに分類した。以下、カテゴリーごとに述べる。文章中の【 】はカテゴリー、『 』はサブカテゴリー、「 」は学生の記述内容を示す。

1. 【キャリアデザイン】

【キャリアデザイン】とは、自らが主体的にキャリアを計画し、組み立てていくことであり、『学修への動機づけ』『職業選択の動機』『看護の魅力』『目指す看護師像』『看護の役割モデル』『卒後のキャリアイメージ』の6サブカテゴリーが抽出された。表1に示す。

『学修への動機づけ』では、「病院での看護師の働きを実際に見ることができ、今後の実習や勉強のモチベーションにつながった」「患者が安心して医療や看護を受けられるように知識・技術を身につけていきたい」「将来、看護師として活躍することを意識し、向上心を持ち努力していきたい」「友達仲間と協力して、お互いに意識を高め合い乗り越えていきたい」などの記述があった。『職業選択の動機』では、「改めて看護師になりたいという気持ちが強くなった」「忘れかけていた「自分も看護師になって頑張りたい」という気持ちを思い出した」「看護師を目指して良かったと改めて感じた」など記述があり、学生は看護師を目指した動機を想起していた。『看護の魅力』では、「改めて看護のすばらしさを感じた」「どんな時でも人に寄り添うなど改めて看護の魅力に気づいた」「人として看護師としてとても働きがいのある仕事」「改めて看護師の責任の重さ、一人の命と向き合うこと、人生の一部にかかわる看護師は魅力のある仕事」の記述があった。『目指す看護師像』では、「看護師像が薄れていたが、自分のなりた

い看護師像が整理できた」「自分が最終的になりたい姿を思う出すことができた」「技術的にも人間的にも認められる看護師になりたい」の記述があった。『看護の役割モデル』では、「私もこのような看護師になりたい」「写っていた看護師はみんな笑顔で輝いて見えた、すてきななあ、私も同じようになりたい」「期待を裏切らず自分も安心感を抱いてもらえるような看護師になりたい」「実際の医療現場で活躍する看護師の姿を見て勇氣、希望を貰い、自分を奮い立たせるような影響を受けた」「患者・家族と向き合い、治療や会話で患者の気持ちを汲み取っていた、私もそのような看護師になりたい」など写真に写る看護職を、将来は自分もあなりたいと思える、憧れ・理想の対象としての記述があった。『卒後のキャリアイメージ』では、「就職後も先輩看護師の手厚いサポートを受けながら成長できることが理解できた」「新卒看護師の様子を写真で見ることで、入職した時のイメージを持てた」など、基礎教育が終了し、就職した卒後1年目の様子がイメージできたという記述があった。

2. 【看護の役割と機能】

【看護の役割と機能】は、『看護の対象』『看護の場』『看護の役割』『医療・看護活動の実際』の4サブカテゴリーが抽出された。表2に示す。

『看護の対象』では、「さまざまな人を対象として看護を行っている」「出産から看取りまでの人の一生に携わり、全ての人が生きていく中で必ずかかわる」という記述があった。『看護の場』では、「看護師はあらゆるところで活動し、人々を支えている」「看護の提供の場とは病院だけでなく、自宅・居宅での看護を望む患者をサポートする在宅看護があり広範囲である」などの記述があった。『看護の役割』では、「どんな状況でも患者やその家族の支援を行い、誰かの役に立つ仕事」「病院の中にいる様々な職業の中でも一番患者の近く、寄り添えるのが看護師」「看護とは人に寄り添い、人の誕生から人生の最期まで寄り添い、支える重要な立場」「必要としている看護は自分が知って

表1. 【キャリアデザイン】 カテゴリー

サブカテゴリー	学生の記述内容
学修への 動機づけ	患者の安全を守るためには、日頃から自分の行動に責任をもって取り組んでいきたい
	病院での看護師の働きを実際に見ることができ、今後の実習や勉強へのモチベーションにつながった
	看護学生として自覚を持ち、必要な知識や技術を身につけていけるように、これからも勉強を頑張っていきたい
	普段の入院生活から災害時まで安心して看護させてもらえるように勉強や演習、実習を頑張る
	患者が安心して医療や看護を受けられるように知識・技術を身につけていきたい
	患者の思いに寄り添い、その人らしく生活できるよう支援できるようこれからも勉学に励みたい
	将来、看護師として活躍する事を意識し、向上心を持ち努力していきたい
	友達仲間と協力し、互いに意識を高め合い乗り越えていきたい
	今後も看護学生として頑張りたい
	看護の現場で働く方からのご指導、患者との関わりを通してたくさん学びたい
職業選択の 動機	どの分野の看護が良いではなく、人が生まれてから看取るまでかわるという考えで看護師をめざしたい
	改めて看護師になりたいという気持ちが強くなった
	忘れかけていた「自分も看護師になって頑張りたい」という気持ちを思い出した
	看護師は素敵な仕事、とても大変だが将来看護師になりたい
	なぜ看護師になりたいのか、どのような看護師になりたいのかを改めて考えるきっかけになった
看護師を目指して良かったと改めて感じた	
看護の魅力	改めて看護のすばらしさを感じた
	看護の仕事は人の出産から看取りまで携わる仕事だと知り、どんな時でも人に寄り添うなど改めて看護の魅力に気づいた
	看護の魅力がぎゅっとつまっていて、看護師の仕事内容、魅力が伝わった
	看護師は出産から看取りまでの一生に携わる仕事という言葉が印象に残り、人として看護師としてとても働きがいのある仕事
	改めて看護師の責任の重さ、一人の命と向き合うこと、人生の一部に関わる看護師は魅力のある仕事
	現在はコロナ禍ではあるものの、そのなかでも一生懸命、患者のための支援をしている看護師は本当に素晴らしい
目指す 看護師像	病院実習を経験していないため、自分の思う看護師像が薄れていたが、自分のなりたい看護師像が整理できた
	「どんな場面でもそばに看護師がいる」、その期待を裏切らずに自分も安心感を抱いてもらえるような看護師になりたい
	自分が最終的になりたい姿を思い出すことが出来た
	技術的にも人間的にも認められる看護師になりたい
	信頼関係の構築や安全な援助を偏りなく行うことができる看護師になりたい
看護の 役割モデル	先輩看護師が患者と触れ合い頑張ってる姿を見て、改めて自分も素敵な看護師になれるように頑張りたい
	写っていた看護師の方々はみんな笑顔で輝いて見えた、ステキだなあ、私も同じようになりたい
	私もこのような看護師になりたい
	実際の医療現場で活躍する看護師の姿を見て勇気、希望を貰い、自分を奮い立たせるような影響を受けた
	DVD内の看護師のように笑顔を大切にする看護師、看護師という仕事に誇りを持って勤務できるようになりたい
	患者の近くにいるからこそ患者の笑顔を引き出せる、私もそのような看護師になりたい
	実際に患者とのコミュニケーションや援助の様子などの写真があり、看護する自分のイメージができた
	看護師がコロナ禍によって、過酷な労働環境の中働いており、私も早く役に立てるようになりたい
	患者と家族と向き合い、治療や会話で患者の気持ちをくみ取っていた。私もそのような看護師になりたい
卒後の キャリア イメージ	特に印象に残ったものは新卒看護師が病院で研修を受けている映像、新卒看護師へのサポートがしっかりとして安心した
	就職後も先輩看護師の手厚いサポートを受けながら成長できることが理解できた
	実際に看護師として働き始めてからも先輩から学んで知識を吸収することが大切である
	看護師1年目は先輩看護師のようになるために、必死に今まで習ってきたことを生かしている姿が印象的
	看護師1年目の方々の写真を見て、少し実感が湧いた
新卒看護師の様子を写真でみることで、入職したときのイメージを持てた	

表2. 【看護の役割と機能】【学修状況への不安感】【看護協会の活動】 カテゴリー

看護の役割と機能

サブカテゴリー	学生の記述内容
看護の対象	看護師がさまざまな人を対象として看護を行なっている
	看護師は出産から看取りまで人の一生に携わり、全ての人が生きていく中で必ず関わる
	看護は出生から看取りまで携わる仕事というのを見て、命が生まれる瞬間や終わる瞬間にかかわる
看護の場	看護師の活躍する姿と活躍の場の広がり
	看護師はあらゆる所で活動し、人々を支えている
	看護の提供の場とは病院だけではなく、自宅で治療やケアを受けながら生活している患者や災害が起こった現場等とても幅広い
	看護には病院での勤務だけではなく、自宅・居居での看護を望む患者をサポートする在宅看護もある
	在宅でも病院と同じように治療を行うことができる、家族と過ごすことができるため QOL も向上することを学んだ
看護の役割	どんな状況でも患者やその家族の支援を行い、誰かの役に立つ仕事
	1 番患者に寄り添うことができる立場、より良い看護を提供する必要がある、そのためには信頼されなければならない職業
	コロナの最前線で働く看護師も見られ、看護師は私が考えていた以上に大変で、人々から必要とされている
	看護とは人に寄り添い、人の誕生から人生の最期まで寄り添い、支える重要な立場である
	看護師は出産から看取りまで人の一生に携わり、患者が安心・安全に医療を受けられるように援助していく
	看護師という仕事の尊さとその職域の広さを改めて感じた
	看護師という職業が単に病院で患者の世話をするだけではなく、患者のアセスメントの協力や他職種との連携などが大切である
	例えば身体に障害があっても、心まで奪われてしまわないようなケアを看護師は行える
	看護師は大変な仕事であると同時に患者の日常を充実した生活にし、患者を笑顔にさせるために必要な存在
	必要としている看護は自分が知っている以上にまだまだある
病院の中にある様々な職業の中でも一番患者に近く、寄り添えるのが看護師	
医療・看護活動の実際	コロナ禍でも患者が安心して医療を受けられるように、頑張っている医療従事者の方がたくさんいる
	コロナ対策だけではなく、変わらず患者と関わり寄り添う姿もあり、看護師は患者にとって身近な存在として活動している
	看護の現場でどのようなことが行われているか、雰囲気をつかむことができた
	看護師だけでなく、たくさんの医療従事者の協力があって、医療が成り立っている
	看護師の仕事、看護師の先輩方が働いている状況を知った
	病院のイメージや看護師の様子を知る機会
病院実習に行けていない中で、病院が実際にどのような感染対策を行っているのかがとても気になっていた。コロナに対する感染対策と防護服の着用などの状況を知った	

学修状況への不安

サブカテゴリー	学生の記述内容
実習への不安	8月の成人看護学実習が初めての实習となるため、不安な点がたくさんある
不安感・孤独感	新型コロナウイルス感染拡大による遠隔授業下で時々、不安や孤独感等を感じる
	一度も病院で実習ができていないこともあり、ずっと不安な気持ち

看護協会の活動

サブカテゴリー	学生の記述内容
看護の日の由来	5月12日が看護の日というのを初めて知った
	5月12日は、フローレンス・ナイチンゲールの生誕の日であることを知った
活動内容	看護師の魅力を知ってもらうために看護の出前授業、講義や体験を行い、看護師を目指す人を増やす活動が行われていること
	看護職を目指す人、そうでない人も、看護職がどんなことを実際にどう行っているのかを知ることができる

いる以上にまだまだある」などの記述があった。

『医療・看護活動の実際』では、「病院のイメージや看護師の様子を知る機会」「看護の現場でどのようなことが行われているのか、雰囲気をつかむことができた」「看護師だけでなく、たくさんの医療従事者の協力があって、医療が成り立っている」「コロナ対策だけでなく、変わらず患者とかわり寄り添う姿もある」などの記述があった。

3. 【学修状況への不安】

【学修状況への不安】は、『実習への不安』『不安感・孤独感』の2サブカテゴリーが抽出された。表2に示す。

『実習への不安』では、「8月に予定されている成人看護学実習Ⅰ（慢性期実習）が初めての实習となることへの不安」であった。『不安感・孤独感』では、「新型コロナ感染拡大による遠隔授業下で時々不安や孤独感を感じる」「一度も病院実習ができていないこともあり、ずっと不安な気持ち」の記述があり、遠隔授業や臨地実習未経験の学修状況への不安を表現していた。

4. 【看護協会の活動】

【看護協会の活動】は、看護職能団体である看護協会の活動であり、『看護の日の由来』『活動内容』の2サブカテゴリーが抽出された。表2に示す。

『看護の日の由来』は、「5月12日が看護の日」「5月12日は、フローレンス・ナイチンゲールの誕生日であること」を知ったという記述であった。『活動内容』は、「看護師の魅力を知ってもらうために看護の出前授業、講義や体験を行い、看護師を目指す人を増やす活動が行われていること」「看護職を目指す人、そうでない人も、看護職がどんなことを実際にどう行っているのかを知ることができる」の記述があった。

IV. 考察

『写真スライドショー「看護の日・看護週間 2021」』を視聴した学生の感想・学びで最も多かった記述

は、【キャリアデザイン】に関することで、『学修への動機づけ』『職業選択の動機』『看護の魅力』『目指す看護師像』『看護の役割モデル』『卒後のキャリアイメージ』の6サブカテゴリーで構成されていた。看護教育機関に入学する前から、入学希望者は、看護の仕事がどのようなものなのかというイメージを持っている。すでに看護師への予期的社会化が始まっている。入学後講義や演習、そして実習を通して看護の専門的知識・技術を習得していく看護学生としての社会化の段階である [10]。本研究の対象者は、看護学生になるための社会化の時期にコロナ禍の影響を受けていた。「忘れかけていた「自分も看護師になって頑張りたい」という気持ちを思い出した」「看護師を目指して良かったと改めて感じた」など記述があり、学生は看護師を目指した動機を想起していた。コロナ禍では、遠隔授業が主となり、学友や教員とのコミュニケーションの機会も制限された。本来、臨地実習を通して看護師の仕事に触れ、臨地実習の場に身を置くことで、視覚を通して看護師や看護のイメージが構築される。今回使用した写真スライドショー「看護の日・看護週間 2021」は、実物ではないが映像の視覚情報として、患者の療養環境や看護実践をイメージさせる教材の役割を果たしていたと推察する。

『看護の対象』『看護の場』『看護の役割』『医療・看護活動の実際』として、【看護の役割と機能】について学んでいた。映像の視覚情報として、患者の療養環境や看護実践をイメージすることにより、1年次の講義や演習、基礎看護学実習で学んだ知識・技術・態度と結びつけ、看護の基本となるものを想起していたと考える。看護教育における初期体験実習の意義として、看護職の多様性、看護の基本となるもの、看護職の魅力等を学び [5]、将来目指す看護師像を持ち看護職志向の動機づけとなった [6] と先行研究で述べている。また、看護職を目指す学生にとっても実習という学習活動は動機づけを高めることが指摘されている [7]。本研究の対象者は、早期体験実習に位置づけられる1年次の臨地実習を経験していないため、対象

の療養環境、生活者としての視点を持つこと、自身の学習課題が明確化できていない可能性もある。今後、学修の動機づけが維持できるような支援が必要である。

少数意見ではあるが、『実習への不安』『不安感・孤独感』など【学修状況への不安】が表現されていた。全国生協連の調査 [11] において、特に入学直後にコロナ禍が深刻化した2年生は、4人に1人対人関係に悩むなど孤立感が際立った、との報告がみられた。授業環境においても感染対策によりマスクを使用し、距離を保つことが求められる。表情がとらえにくく、五感を使ったコミュニケーションが困難な環境は継続している。今後、感染対策が可能な環境を保ちながら、学生間のコミュニケーションや共に学ぶ環境づくりが求められると考える。

V. 結論

写真スライドショー「看護の日・看護週間2021」を視聴した学生の学びについて、内容を分類した。

- 1) 学生は、写真スライドショー「看護の日・看護週間2021」から【キャリアデザイン】【看護の役割と機能】【学修状況への不安】【看護協会の活動】について、感想・学びを得ていた。
- 2) コロナ禍における学習環境の変化や授業や臨地実習の制限がもたらす影響を把握し、学習支援を継続していく必要性が示唆された。

文献

- [1] 文部科学省ホームページ 大学における看護実践能力の育成に向けて 看護学教育の在り方に関する検討会報告書
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401.htm
(2022年5月1日引用)
- [2] 文部科学省ホームページ 遠隔授業等の実施に係る留意点及び実習等の授業の弾力的な取扱い等について
https://www.mext.go.jp/content/20200501-mxt_kouhou02-000004520_3.pdf (2022年5月1日引用)
- [3] 日本看護系大学協議会ホームページ 2020年度COVID-19に伴う看護学実習への影響調査結果
<https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/covid-19cyousaAB.pdf>
(2022年5月15日引用)
- [4] 大鳥和子, 鈴木由紀子, 駒井里枝, 他: コロナ禍における成人看護学実習I(慢性期看護実習)~臨床実習指導者と教員の共同による実習指導の取り組み 第1報~. 2020; 15. 39-47.
- [5] 桜井礼子, 山口真由美: 看護基礎教育における初期体験実習の経験と意義. 大分看護科学研究 1999; 1. 20-26.
- [6] 吉良すえ子, 根本良子, 今泉正子, 他: 看護観を重視した早期体験における学生の学び-実習後の体験レポートの分析より-. 研究紀要青葉 Seiyō, 2011; 3. 25-34.
- [7] 上村千鶴, 田村美子, 高橋美由紀: 基礎看護学臨地実習における初年次履修学生の学修動機づけと学習行動:パイロットスタディ. 安田女子大学紀要, 2020; 48. 371-380.
- [8] 内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室ホームページ新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の区域変更(令和2年4月16日)
https://corona.go.jp/news/pdf/kinkyujitaisengen_gaiyou0416.pdf
(2022年1月26日引用)
- [9] 看護みやぎ 公益社団法人宮城県看護協会 会報 2021.8.1 N0.154 pp.4
- [10] 勝原由美子: 看護師のキャリア論. ライフサポート社, 東京, 2007, pp.44-51.
- [11] 全国大学生生活協同組合連合会ホームページ 第57回(2021年秋実施)学生生活実態調査速報
https://www.univcoop.or.jp/press/life/pdf/pdf_report57_pre.pdf (2022年3月2日引用)

